

乳児が育つ保育環境を保障する保育者の成長プロセスに関する研究

仲本 美央

研究実績の概要

2018年の指針や要領の改訂に伴い、これまで以上に保育者は自らの専門性における資質の向上を目指している現状にある。保育の質に関しては、保育現場内外の団体や研修機関における研修会の充実が求められ、保育者の経験年数や現場での役割に応じた初任者研修、中堅者研修、主任研修、管理職研修、キャリアアップ研修など、より一層、段階的・階層的な研修プログラムの実施が求められるようになってきている。

本研究では、保育において重要とされている保育環境の質を保障する保育者の役割とその成長プロセスに焦点をあてて、どのように保育者が実践の中で、子どもにとっての人的環境の一人として自らの保育者アイデンティティ形成や年間を通じてどのように物的環境を整えていくのかを明らかにし、子どもが育つ保育環境の質を保障する上で有効な保育者研修プログラムを提案することを目的としている。2018年度の研究経過としては、研修プログラム作成に伴い、研究協力保育園の園長

ならびに保育士4名とともに、2016年より取り組んでいる日常の保育に関するエピソード記録による振り返りの研修(図1参照)に加え、外部カメラマンの撮影による写真記録を加えての研修年間12回実施し、保育者が自らの保育の質を捉えるための振り返りの方法を検討した。その結果、保育者が写真を選択し、その写真に①場面のエピソード、②保育者が子どもを捉える視点や考え、③実際の保育者の援助や支援の方法、④物的環境、⑤他の保育場面や状況との関連性(※例えば、保護者対応の写真としてはお迎えの保育者と保護者の会話場面を取り上げた場合、保護者が安心して子どもをお迎えできるための保育環境整備や連絡帳を活用した会話などの写真やエピソードを関連させる)の5つの点を保育記録マップとして作成しながら話し合うことが有効であった。今後は、保育記録マップを活用した園内研修を一年間取り組み、保育者自らが研修前から研修後の保育の質においてどのような成長プロセスを辿っているのかを検討予定である。

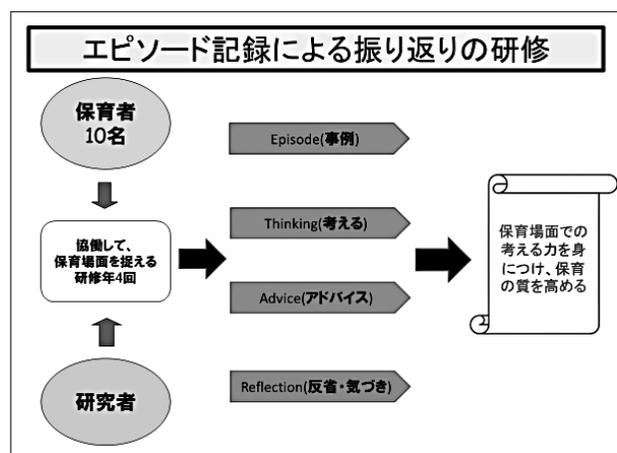


図1：エピソード記録による振り返りの研修